



かめっ子

学校だより 7月号
令和7年 7月1日
足立区立亀田小学校
校長 井上 龍夫

「私は今から一輪車に乗れるのか？発達課題を考える」

校長 井上 龍夫

梅雨空の合間からお日様がのぞくと、校庭や中庭、体育館などあちこちからにぎやかな声が聞こえてきます。全校児童がいつでも伸び伸びと体を動かす機会があるのは本校の素晴らしさの一つです。そして、そこに多くの先生方の姿があることも本校の自慢です。新しい学年や学級がスタートしてからもうすぐ3か月。その声は一段と大きく、力強く響くようになりました。

私の前任校では休み時間に一輪車に挑戦する低学年の児童をよく見かけました。少し前まで跨ることで精一杯だった子が、あっという間に何mも進めるようになっていくことに驚きました。私たち大人が0から乗りこなせるようになるには、子どもの何倍もの時間を費やすはずで、これには裏付けとなるような説があります。

皆さんもどこかで「スキヤモンの発達・発育曲線」というグラフを見たことがありませんか。（右図）成長発育を20歳のレベルを100%として考え、子どもの各体組織の発育の特徴を4つのパターンに分けてグラフ化したものです。そこでは、運動に関係の深い「神経系」は、12歳までにほぼ100%まで達するとされています。この時期の神経系は発達が著しく、さまざまな神経回路が形成されていくというのです。その時期から遠ざかっている年齢の私が一輪車を乗りこなすのは至難の業のようです。また、神経回路は一度その経路が形成されるとなかなか消えません。いったん自転車に乗れるようになると何年間も乗らなくても、いつでもスムーズに乗れることができるのはそのためです。この時期に多くの刺激を与え、多様な動きを経験させることはとても重要です。

もう少し大きな捉え方として、心理学者E・H・エリクソンらが提唱した「発達課題」という考え方があります。発達課題とは、「人間が健全で幸福な発達をとげるために各発達の段階で達成しておかなければならない課題」であり、「次の発達段階にスムーズに移行するために、それぞれの発達段階で習得しておくべき課題」があるとしています。もちろん、子どもには個人差があり、発達の様相は一様ではありません。ただ、この時期だからこそ学べることを、学ぶべきことがあるのも事実です。

もうすぐ子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきます。学校でもサマースクールや水泳指導を実施する予定です。ご家庭でも、夏休みだからできることを、今だからこそ学べることに挑戦させてほしいと思います。9月、一回り大きくなった姿が見られることを楽しみにしています。

